

横井 昌明 議員

識市会

市地域防災計画は地震被害に 水害も加えた想定で見直しを

問

(1) 南海トラフ地震の想定が地震被害だけで市地域防災計画が策定されているが、地震被害に加え、水害の可能性が高いのであれば、計画の見直しが必要では。

(2) 道路が冠水した場合、市民への救援物資の輸送手段がなく、舟に頼るしかないと考え、舟の確保は大丈夫か。

また、学校などの大きな避難施設には、連絡用のゴムボートを2、3艇確保する必要があると考える。25年度決算書の財産調書の中で救援用ボートを20艇所有とあるが、どこで保管され

ているのか。

(3) 毎年、市役所の開発部職員が排水訓練を行っており、排水器具は庁舎東側の倉庫に保管してある。

この排水機は相当な機能があると思うが、能力はどのくらいあるのか。

(4) 現在の庁舎で震度6以上の地震が発生したと想定すると、その際に庁舎内にみえる市民や職員はどのように避難するのか。

また、市民の避難誘導をどのようにするのか。

県の地域防災計画の修正に
併せて毎年修正していく

答 市長

(1) 本市の地域防災計画は、風水害と地震対策が別に書かれているが、基本的には自然災害対策という形で構成されている。

本市の地域防災計画は、毎年行われる愛知県地域防災計画の修正に併せ、市の防災会議で承認をうけて修正を加えている。今回の被害想定を踏まえた地域防災計画を作成していく。

答 総務部長

(2) 舟艇の保管場所と数は、折り畳み式のアルミボートが、白鳥小学校に3艇、白鳥コミュニティセンターに1艇、総合福祉センターに4艇、中山防災倉庫に4艇、大藤小学校に4艇、栄南小学校に3艇、十四山中学校に1艇で、各地区に合計20艇配置している。

ゴムボートは、総合福祉センターに1艇、南部地区防災センターに2艇配置している。

各施設にゴムボートを十分に配備することは難しいので、まずは現在保有している舟艇などの配備計画の見直しを考えていきたい。

答 開発部長

(3) 市所有の水中ポンプ、発電機、操作盤については、市役所北側の附属施設1階の倉庫に保管している。

排水能力は、水中ポンプが現在4台あり、1台の口径が300ミリで、1台当たり1分間に10トン排水する能力がある。

答 総務課長

(4) 地震の揺れが収まるまでは危険なので、まず、シェイクアウト【】し、揺れが収まったら市役所の外に誘導した後、津波を想定し(図書館棟3階の)市民ホールまで誘導する。

 ①「しをひくく」、②「あたまをまもり」、③「じつとする」、地震から身を守る安全行動。

市の公園管理業務は 同一課で行うべき

問

(1) 市の都市公園、都市緑地、公園以外の緑地、子ども遊び場の箇所数、面積、所管課を尋ねる。

(2) 同一課で管理運営した方が合理的ではないか。

今後の組織再編で公園管理
業務を一括していく

答 総務部長

(1) 公園は、下水道課の管理が1カ所、面積687㎡、農政課の管理が2カ所、面積15万5千600㎡、商工観光課の管理が1カ所、面積1千260㎡、都市計画課の管理が24カ所、面積14万8千972㎡である。

児童課が管理する子どもの遊び場は29カ所、面積4万3千677㎡である。

(2) 今後の組織再編の中で、同一課で全ての公園管理業務を行う計画である。



▶西中地町内の子どもの遊び場